公益財団法人農学会・日本農学アカデミー 共同主催公開シンポジウム

後援：東京大学大学院農学生命科学研究科、毎日新聞社、
日本農業新聞社、ワールドウォッチジャパン

持続可能な食料システムに向けて

2022 3/12(土) 13:00-17:30

オンライン開催（zoomウェビナー）

定員500名／要事前申し込み

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_my88r306T2OOZDvcMIxgKg

参加無料

総合司会：(公財)農学会 常務理事　堤　伸浩

13:00~13:05　開会挨拶　(公財)農学会 会長　古谷　研

13:05~13:15　趣旨説明　東京大学大学院農学生命科学研究科　中嶋 康博

13:15~13:50
「近代農業の光と影」
東京大学大学院農学生命科学研究科　根本 圭介

13:50~14:25
「地球環境と100億人の健康のための食料システム
―プラネタリー・ヘルス・ダイエットを中心に―」
国際農林水産業研究センター 情報プログラム　飯山みゆき

14:25~15:00
「国際機関が予測する10年後の食料
―OECD-FAOの世界食料需給見通しより―」
経済協力開発機構（OECD）農業・貿易局　小泉 達治

15:00~15:15　‥‥ 休憩(15分)‥‥

15:15~15:50
「持続可能な食料システムのために
食品ロス削減が果たす役割とは」
株式会社office 3.11代表　井出 留美

15:50~16:25
「国連食料システムサミット before after」
農林水産審議官　新井ゆたか

16:25~16:30　‥‥ 休憩(5分)‥‥

16:30~17:30　総合討論　パネリスト：上記講演者5名
司会進行　中嶋 康博

17:30~　閉会挨拶　日本農学アカデミー会長　大政 謙次

主旨説明

SDGsは2030年までの飢餓撲滅を目標としてきました。しかし、皮肉なことに開始直後から、それまで順調に低下していた世界の栄養不足人口が再び増えることになっています。そして、COVID-19でさらなる悪化が懸念されています。せっかく十分な食料が生産されても、集荷、加工、流通、販売などに関わる産業や社会のシステムが健全に機能しないため、必ずしもすべての人に行き渡っていません。また、無理な食料生産を進めたことで地球環境や生態系に深刻な問題が起こっていることが、科学的に明らかになってきました。本シンポジウムでは、2021年9月に開催された国連食料システムサミットで議論されたことも参照しながら、SDGsの目標達成を目指し、持続可能な食料システムがどうあるべきかについて考えていきます。

問合先
（公財）農学会　E-Mail: zaidan@nougakkai.or.jp
日本農学アカデミー　E-Mail: office@academy-nougaku.jp